

《開幕》

六本木ヒルズ・森美術館15周年記念展

建築の日本展：その遺伝子のもたらすもの

2018年4月25日(水)ー9月17日(月・祝) 森美術館(六本木ヒルズ森タワー53階)

未来へ紡ぎたい、日本建築のわざ、こころ、かたち

縄文の住居から最新の現代建築まで100プロジェクトを通して日本建築の本質に迫る！

森美術館は、2018年4月25日(水)から9月17日(月・祝)まで、「建築の日本展：その遺伝子のもたらすもの」を開催します。

いま、世界が日本の建築に注目しています。丹下健三、谷口吉生、安藤忠雄、妹島和世など多くの日本人建築家たちが国際的に高い評価を得ているのは、古代からの豊かな伝統を礎とした日本の現代建築が、他に類を見ない独創的な発想と表現を内包しているからだとはいええないでしょうか。

日本は、明治維新からの150年間、大いなる建築の実験場でした。幾多の実践のなかで、日本の成熟した木造文化はいかに進化したのでしょうか。西洋は日本の建築にどのような魅力を見だし、日本建築はそれにどう向き合ったのでしょうか。日々の暮らしや自然観といった目に見えないものの変遷も日本の建築を捉える上で重要な要素となるはずです。

本展は、いま、日本の建築を読み解く鍵と考えられる9つの特質で章を編成し、機能主義の近代建築では見過ごされながらも、古代から現代までその底流に脈々と潜む遺伝子を考察します。貴重な建築資料や模型から体験型インスタレーションまで100プロジェクト、400点を超える多彩な展示によって、日本建築の過去、現在だけでなく、未来像が照らしだされることでしょう。



《古代出雲大社本殿》
年代不詳/2018年(CG) 制作：後藤克典



隈 研吾 《栲原・木橋ミュージアム》
2010年 高知 撮影：太田拓実



坂 茂 《静岡県富士山世界遺産センター》
2017年 静岡 撮影：平井広行

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当：都木、津原、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

森美術館「建築の日本展」 藤森照信(本展監修)

丹下健三の登場を機に、日本の現代建築は世界の先端に躍り出て今にいたるが、それが可能になったのは、日本の伝統的建築の遺伝子が、建築家本人の自覚の有無とは別に、大きく関係している。たとえば、空間の感覚とか柱と壁による木の構造とか、内外の区分とか。

そうした伝統と現代の見えざる関係について、代表的建築家の実作を取りあげて明らかにする。

開催概要

展覧会名: 建築の日本展: その遺伝子のもたらすもの

主催: 森美術館

後援: 一般社団法人日本建築学会、公益社団法人日本建築家協会、
アルカジア東京大会2018、一般社団法人日本建築構造技術者協会、
一般社団法人日本デザイン学会

協賛: 株式会社大林組、清水建設株式会社、株式会社竹中工務店、鹿島建設株式会社、
大成建設株式会社、株式会社日本設計、合同会社日本MGMリゾート、
大光電機株式会社、IHI運搬機械株式会社、株式会社きんでん、
三建設備工業株式会社、アマノ株式会社、千代田ビル管財株式会社、
フジテック株式会社、株式会社入江三宅設計事務所、株式会社関電工、
株式会社建築設備設計研究所、株式会社久米設計、株式会社九電工、
日本ピーマック株式会社、株式会社乃村工藝社、パナソニック株式会社、
三機工業株式会社、高砂熱学工業株式会社、株式会社山下設計、
横浜ビル建材株式会社

協力: シャンパーニュ ポメリー、コーニングインターナショナル株式会社、株式会社ハロー、前田建設工業株式会社、
ものづくり大学、野口直人建築設計事務所、おだわら名工舎、住友電気工業株式会社、株式会社テオ、株式会社山長商店

監修: 藤森照信(建築家・建築史家/東京大学名誉教授)

企画: 南條史生(森美術館館長)、前田尚武(森美術館建築・デザインプログラムマネジャー)、
徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)、倉方俊輔(建築史家/大阪市立大学大学院工学研究科准教授)、
ケン・タダシ・オオシマ(建築史家/ワシントン大学教授)

企画協力: 香川県立ミュージアム

展示デザイン: 森美術館、川勝真一、工藤桃子、元木大輔、橋詰 宗、飯田将平

会期: 2018年4月25日(水) - 9月17日(月・祝)

会場: 森美術館(東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー53階)

開館時間: 10:00-22:00 | 火 10:00-17:00

*「六本木アートナイト2018」開催に伴い、5/26(土)は翌朝6:00まで開館延長。*いずれも入館は閉館時間の30分前まで *会期中無休

入館料: 一般 1,800円、学生(高校・大学生) 1,200円、子供(4歳~中学生) 600円、シニア(65歳以上) 1,500円

*表示料金は消費税込。*本展のチケットで展望台 東京シティビューにも入館可(スカイデッキを除く)。*屋上 スカイデッキへの入場は、別途料金(500円)がかかります。*5/18(金)「国際博物館の日」は一般の入館料が1,800円⇒1,700円になります。(対象は一般のみ。他の割引との併用はできません。)

一般のお問い合わせ: Tel: 03-5777-8600(ハローダイヤル) 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 都木、津原、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

展覧会のみどころ

100プロジェクト、展示総数400点を超える圧巻のスケール

古くは縄文時代の住居から、現在進行中のものや未来の計画案を含む最新の現代建築まで100プロジェクトを、総数400点を超える展示資料で紹介します。

千利休作の茶室、国宝《待庵》を原寸で再現

千利休の作と伝えられ、現存する茶室建築としては日本最古の国宝《待庵》(京都府・妙喜庵)は、「わび」の思想を空間化したもので、日本文化を語る上で欠くことのできない建築の一つです。本展では、原寸スケールで再現し、二畳の茶席やにじり口(出入口)でよく知られる極小空間を体感して頂けます。



伝千利休 《待庵》 安土桃山時代(16世紀)/2018年(原寸再現)
制作:ものづくり大学 ※参考図版

丹下健三の自邸を1/3スケールで再現した巨大模型

広島平和記念公園(1954年)、東京オリンピック(1964年)、大阪万博(1970年)など、戦後の国家的プロジェクトを牽引した建築家・丹下健三。「美しいもののみ機能的である」と唱えた丹下が、桂離宮など日本の古建築を再解釈し、建築の新たな創造の可能性を拓いた《自邸》(現存せず)を巨大模型で再現します。また、当時の様子が伺える写真をARで鑑賞することができます。



丹下健三 《住居(丹下健三自邸)》
1953年 東京、現存せず 撮影:丹下健三

ライゾマティクス・アーキテクチャーが 最新技術で再現する日本建築のスケールを3Dで体感

ライゾマティクスを率いる世界が注目するクリエイティブ・アーティスト齋藤精一は、コロンビア大学建築学科で学び、建築で培ったロジカルな思考と知見をもとに創作するメディアアートで知られています。本展では、最新技術のレーザーファイバーと映像を駆使し、日本建築の空間概念を大小さまざまなスケールで原寸再現し、そのダイナミズムを3Dで体感する体験型インスタレーションの新作を発表します。



齋藤精一+ライゾマティクス・アーキテクチャー
《パワー・オブ・スケール》
2018年 インスタレーション ※参考図版

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 都木、津原、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

■ 日本建築史における学術的にも貴重な資料を展示

大工棟梁に代々受け継がれ、江戸時代に広く普及した秘伝書、明治初期に制作された擬洋風建築の模型、大正～昭和初期に日本の古建築研究のために制作された学術模型、明治後期にドイツで発刊されモダニズム建築の発展に広く貢献したフランク・ロイド・ライトの作品集、戦前にシャルロット・ペリアンが東北の農民の生活改善のために、藁でデザインした寝椅子など、建築史を複層的に考察できる資料を一挙公開します。



シャルロット・ペリアン 《折りたたみ式寝台とクッション》
1941年 所蔵：山形県立博物館

■ モダニズムの名作家具で構成されたブックラウンジ

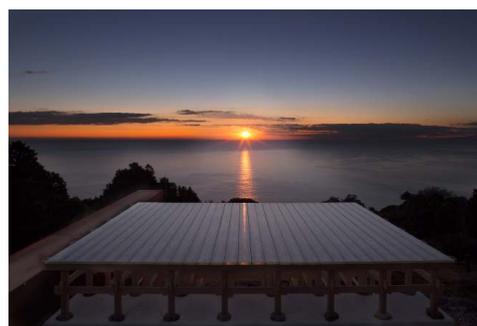
剣持勇や長大作など戦後のモダニズム建築を彩ってきたデザイナーによる名作家具は、美術館に収蔵されているものも多く、通常、展覧会で展示されても手に触れることはできません。本展では、今なお現役で使用されているこれらのオリジナルの家具を集め、実際に座ることができるラウンジを展示室内に設えます。展覧会をより深く知ることができる書籍を閲覧しながらお過ごしいただけます。



丹下健三研究室 《香川県庁舎間仕切り棚》
1955-58年 ほか ※参考図版

■ 国際的に活躍する日本人建築家の最新のプロジェクトを紹介

伊東豊雄の《台中国立歌劇院》(2016年)、SANAAの《荘銀タクト鶴岡》(2017年)、坂茂の《静岡県富士山世界遺産センター》(2017年)、杉本博司の《江之浦測候所》(2017年)など近年竣工したプロジェクトに加え、石上純也の《House & Restaurant》や、岡啓輔の《^{あひますとんび}蟻鱒鳶ル》など現在進行中のプロジェクトを紹介。さらにはティンバライズの木造超高層の計画案など未来の建築をも考察します。



杉本博司 《光学硝子舞台(小田原文化財団 江之浦測候所)》
2017年 神奈川 © 小田原文化財団

■ さまざまな鑑賞者に配慮した展示デザインで鑑賞方法を自由に選択

新たな試みとして、森美術館と若手建築家の川勝真一、工藤桃子、元木大輔、グラフィックデザイナーの橋詰宗と飯田将平との協働により、従来とは異なる、鑑賞者の建築への興味や関心、知識や専門性の度合いに配慮した画期的な展示デザインを実現。展示室の5.5メートルの壁を3段階のエリアに分割し、高さ3メートル以上の上部(遠景エリア)に大型の映像、写真、言葉など専門知識がなくても楽しめる概要を、高さ1～3メートルの中部(中景エリア)に展示の核となる資料を、高さ1メートル以下の下部(近景エリア)は解説等の詳細情報を掲出しています。鑑賞者は自分の興味や関心にあわせて、情報を自由に選択し、鑑賞することができます。

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 都木、津原、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

展覧会の構成：9つのセクション

1. 可能性としての木造

国土の70%が森林である日本が育んだ木の文化は、持続可能なシステムだと言えます。古代から木を活かす技術が発達し、大工棟梁に受け継がれてきた秘伝書や伝統建築にみられる木組は木の文化の証です。木造建築が見直されている今、日本の木造文化の技と思想、その未来の可能性について考えます。



北川原温
《ミラノ国際博覧会2015日本館 木組インフィニティ》
2015年 ミラノ(イタリア) 撮影：大野 繁

2. 超越する美学

もののあはれ、無常、陰翳礼讃など、日本の美意識には超越的な姿勢があります。信じがたいほどの繊細さと大胆さが溶け合い、シンプルという言葉すら超えた表現は、木造にも打放しコンクリートにも通底する日本建築にも受け継がれる遺伝子のひとつです。



谷口吉生 《鈴木大拙館》
2011年 金沢 撮影：北嶋俊治

3. 安らかなる屋根

日本建築は屋根である、と言われます。屋根は雨や雪を遮り、深い軒により日光を味方にします。人間を守る機能性ととも、その曲線美、水平美は風景のなかで象徴性をたたえ、安心感を与えます。伝統的な日本建築の屋根が近現代の建築家にいかなるインスピレーションを与えてきたかを考察します。



三分一博志 《直島ホール》
2015年 香川 撮影：小川重雄

4. 建築としての工芸

建築は工芸の集積である——明治期に建築という概念が西洋から持ち込まれる以前の日本には、自然を抽象化する意匠のセンスと、高度な匠の技を駆使し、「部分」の集積が「全体」すなわち建築物をなす、成熟したものづくりがありました。このような工芸性は、遺伝子として近現代の建築にも脈々と流れています。



吉田五十八
《ロイヤルホテル メインラウンジ》
1973年 大阪 画像提供：株式会社竹中工務店

5. 連なる空間

20世紀に入り、日本建築が世界に伝えたのは、建築は必ずしも内外を壁で仕切らなくても成り立つこと、部屋の機能は固定されなくてもよいこと、豪華な装飾ではなく素材そのものの表現によって品位が保てることでした。実用性が見た目の美しさにもつながる、開かれた空間の理想像は今も日本建築に生き続けています。



丹下健三
《香川県庁舎》
1959年 香川
撮影：市川靖史
画像提供：香川県

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局（共同ピーアール内） 担当：都木、津原、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

6. 開かれた折衷

日本の伝統建築は、6世紀、仏教とともに伝来した技術や意匠に始まり、さまざまな文化の融合や変容を経て「日本らしさ」が形作られました。ここでは、明治期に大工棟梁が手掛けた擬洋風建築や、世界的な視座で日本建築を模索した伊東忠太の挑戦を紹介します。世界はそもそも折衷である、という日本の視点は、多文化主義の現代、未来に開かれた遺伝子だと言えるでしょう。

7. 集まって生きる形

日本における「公共」には、長屋、寺子屋など縁がつなぐ空間の伝統があります。ここでは、伝統的集落を実測した調査や雪害に苦しむ農村問題など、建築が社会に向き合った例を紹介します。現代社会における新たなコミュニティ形成の方法として、自然の恵みと災害に囲まれた日本の「集まって生きる形」への注目は高まっています。

8. 発見された日本

「伝統」は見出されるものだとしたら、国外から発見された日本建築も、いま、あらためて考察すべき知の資産です。来日したフランク・ロイド・ライトやアントニン・レーモンドから、現在第一線で活躍する建築家まで、国外の建築家が創造的に捉えた日本像を紹介します。また、海外に建設され、国際的な評価を得た日本の建築も参照します。

9. 共生する自然

日本人は自然に畏怖の念を抱き、崇高なものとして信仰の対象としてきました。そうした自然観はどのように日本の建築に反映されてきたのでしょうか。建築を自然の一部と捉え、自然を素材のひとつとして建築をつくる。自然との境界をデザインする。建築に見る日本の自然観は未来へと紡がれます。



小林清親 《海運橋 第一銀行雪中》
平成の新版 大判錦絵 所蔵：清水建設



猪熊 純、成瀬友梨 《LT城西》
2013年 名古屋 撮影：西川公明



フランク・ロイド・ライト 《帝国ホテル(正面中央部入口)》
1923年 東京 画像提供：帝国ホテル



安藤忠雄 《水の教会(星野リゾート トマム)》
1988年 北海道 画像提供：星野リゾート トマム

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局（共同ピーアール内） 担当：都木、津原、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

プロジェクト一覧

1_01	ミラノ国際博覧会2015日本館 木組インフィニティ 北川原温 2015年／2018年(再制作)	5_51	モジュールと木割
1_02	木組	5_52	HouseMaker 吉村靖孝 2014年
1_03	東大寺南大門 1199年(鎌倉時代) 国宝 世界文化遺産	5_53	フクマススペース／福増幼稚園新館 吉村靖孝 2016年
1_04	橋原 木橋ミュージアム 隈 研吾 2010年	5_54	東京国立博物館 法隆寺宝物館 谷口吉生 1999年
1_05	ホテル東光園 菊竹清訓 1964年	5_55	家具のモダニズム
1_06	嚴島神社大鳥居 1875年 重要文化財 世界文化遺産	6_56	宮城県会議事堂 久米耕造、植田 登 1882年(明治時代) 現存せず
1_07	平等院鳳凰堂の組物 1053年(平安時代) 国宝 世界文化遺産	6_57	祇園閣 伊東忠太 1927年
1_08	大工秘伝書	6_58	駒沢オリンピック公園総合運動場 体育館 管制塔 戸原義信 1964年
1_09	会津ざざえ堂 1797年(江戸時代) 重要文化財	6_59	伊東忠太と日本建築
1_10	古代出雲大社本殿 年代不詳 現存せず	6_60	第一国立銀行(三井組ハウス) 清水喜助 1872年(明治時代) 現存せず
1_11	空中都市 渋谷計画 磯崎 新 1962年(計画案)	6_61	大礼記念京都美術館(現 京都市美術館) 前田健二郎 1933年
1_12	ティンパライズ200 東京大学生産技術研究所藤原幹雄研究室 +ティンパライズ 2018年(計画案)	6_62	静岡県富士山世界遺産センター 坂 茂 2017年
1_13	東照宮 五重塔 1818年(江戸時代) 重要文化財 世界文化遺産	7_63	旧閑谷学校 1701年(江戸時代) 特別史跡
1_14	東京スカイツリー 日建設計 2012年	7_64	旧農林省積雪地方農村経済調査所(雪調) 1933年
1_15	国際教養大学図書館 仙田 満 2008年	7_65	積雪地方農村経済調査所庁舎と雪国試験農家 今和次郎 1937年
2_16	伊勢神宮正殿	7_66	恋する豚研究所 アトリエ・ワン 2012年
2_17	鈴木大拙館 谷口吉生 2011年	7_67	栗源第一薪炭供給所(IK) アトリエ・ワン 2018年
2_18	佐川美術館 樂吉左衛門館 樂吉左衛門(設計創案)、竹中工務店 2007年	7_68	52間の線路 山崎健太郎 2019年(竣工予定)
2_19	孤蓬庵 忘筌 1800年(江戸時代) 重要文化財	7_69	神代雄一郎のデザイン・サーヴェイ 明治大学神代雄一郎研究室 1960-70年代
2_20	アトリエ・ビスクドール 前田圭介 2009年	7_70	瀬戸内のデザイン・サーヴェイ
3_21	家形埴輪 3-7世紀頃(古墳時代)	7_71	ヒルサイドテラス 横 文彦 1969年-1998年
3_22	家屋文鏡 3-7世紀頃(古墳時代) 181年(明治時代)出土	7_72	LT城西 猪熊 純、成瀬友梨 2013年
3_23	日本武道館 山田 守 1964年	8_73	シカゴ万国博覧会日本館 鳳凰殿 久留正道 1893年(明治時代) 現存せず
3_24	『日本の民家』 伊藤ていじ、二川幸夫 1957年-1959年	8_74	フランク・ロイド・ライトと浮世絵
3_25	直島ホール 三分一博志 2015年	8_75	旧帝国ホテル・ライト館 フランク・ロイド・ライト 1923年(大正時代) 現存せず／1985年(移築:中央玄関)
3_26	荘銀タクト鶴岡(鶴岡市文化会館) SANAA 2017年	8_76	シンドラー自邸(キングス・ロード・ハウス) ルドルフ・シンドラー 1922年
3_27	牧野富太郎記念館 内藤 廣 1999年	8_77	荊町の自邸・事務所と旧井上房一郎邸 アントニン・レーモンド 1951年 現存せず／井上房一郎 1952年
3_28	東京オリンピック国立屋内総合競技場 丹下健三 1964年	8_78	赤星四郎週末別荘 アントニン・レーモンド 1931年 現存せず
3_29	洛中洛外園 16-19世紀頃	8_79	ザ・アーキテクチャ・オブ・ジャパン アーサー・ドレクスラー 1955年
3_30	佳水園 村野藤吾 1960年	8_80	日本家屋展 松風荘 吉村順三 1954年／1957年(移築)
3_31	京都の集合住宅(NISHINOYAMA HOUSE) 妹島和世 2013年	8_81	ボカンティコヒルの家(ロックフェラー邸) 吉村順三 1974年
4_32	ロイヤルホテル メインラウンジ 吉田五十八 1973年	8_82	ダーティーハウス デヴィッド・アジャイ 2002年
4_33	日生劇場 村野藤吾 1963年	8_83	ボーン自邸 ジョン・ボーン 1999年
4_34	ブルー・ノ・タウトの工芸	8_84	レス・コルズ・パペヨーンズ RCR アルキテクタス 2005年
4_35	旧日向家熱海別邸地下室 ブルー・ノ・タウト 1936年 重要文化財	8_85	ルーヴル・ランス SANAA 2012年
4_36	日本万国博覧会 東芝IH館 黒川紀章 1970年 現存せず	8_86	台中国家歌劇院 伊東豊雄 2016年
4_37	蟻舘 <small>ありだまの</small> 岡 啓輔 2005年-(建設中)	9_87	竪穴住居の復元研究
4_38	湧雲の望楼 羽深隆雄 2008年	9_88	聴竹居(旧藤井厚二郎) 藤井厚二 1928年 重要文化財
4_39	幻庵からアンモナイト美術館へ 石山修武	9_89	後山山荘 藤井厚二(原設計)、前田圭介 1930年代／2013年
4_40	待庵 伝 千利休 1581年頃(安土桃山時代) 国宝	9_90	A House for Oiso 田根 剛 2015年
4_41	ルイ・ヴィトン松屋銀座 青木 淳 2013年	9_91	名護市庁舎 象設計集団+アトリエ・モビル 1981年
4_42	ハノーバー国際博覧会日本館 坂 茂 2000年 現存せず	9_92	芝棟
5_43	寝殿造 8-12世紀(平安時代)	9_93	ラ コリーナ近江八幡 草屋根 藤森照信 2014年
5_44	『過去の構成』と『現代の構成』 岸田日出刀 1929年-1930年	9_94	投入堂 1086年-1184年(平安時代) 国宝
5_45	石元泰博と桂離宮	9_95	小田原文化財団 江之浦測候所 杉本博司+榎田倫之 2017年
5_46	桂離宮 1663年(江戸時代)	9_96	豊島美術館 西沢立衛 2010年
5_47	House N 藤本壮介 2008年	9_97	House & Restaurant 石上純也 2016年-(建設中)
5_48	住居(丹下健三自邸) 丹下健三 1953年 現存せず	9_98	宮島弥山展望台 三分一博志 2013年
5_49	香川県庁舎 丹下健三 1958年	9_99	嚴島神社 1241年(鎌倉時代) 重要文化財 世界文化遺産
5_50	パワー・オブ・スケール 齋藤誠+ライオンマティクス・アーキテクチャー 2018年	9_100	水の教会 安藤忠雄 1988年

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 都木、津原、村田
 Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
 〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

展覧会関連プログラム

■トークセッション「グローバルな視点から見る“建築の日本”」※日英同時通訳付

建築家伊東豊雄、建築史家ケン・タダシ・オオシマ、当館館長の南條史生が、本展企画に携わった倉方俊輔をモデレーターに、グローバルな視点から「建築の日本」について語り合います。日本建築が海外の建築に与えた影響を含め、建築の歴史化の問題や日本建築の未来、建築をどのように概念規定していくか、また、その可能性などについて考えます。

出演:伊東豊雄(建築家)、ケン・タダシ・オオシマ(建築史家、ワシントン大学教授)、南條史生(森美術館館長)

モデレーター:倉方俊輔(建築史家、大阪市立大学大学院工学研究科准教授)

日時:2018年4月25日(水)19:00-21:00(受付開始:18:30)

会場:森美術館オーデトリウム **定員:**80名(要予約)

料金:無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です)

お申し込み:受付は終了しました。



伊東豊雄



ケン・タダシ・オオシマ



倉方俊輔

撮影:下村しのぶ

■シンポジウム「今、日本の建築を考える」※日英同時通訳付、手話同時通訳付

日本建築の現在と未来をテーマに、幅広い分野から専門家を迎えます。本展を監修した藤森照信による基調講演では日本建築の歴史を紐解きながら、日本建築の特有性や世界へ与えた影響について考察します。また、建築家の妹島和世、デザイン分野から原研哉、メディアアートの分野から齋藤精一、本展企画に携わった建築史家の倉方俊輔を交え、多様な視点から日本建築の今、そして未来について語り合います。

出演:藤森照信(建築家、建築史家、東京大学名誉教授)

妹島和世(建築家、SANAA事務所代表取締役)

原 研哉(デザイナー)

齋藤精一(ライゾマティクス クリエイティブ&テクニカル・ディレクター)

倉方俊輔(建築史家、大阪市立大学大学院工学研究科准教授)

モデレーター:南條史生(森美術館館長)

日時:2018年4月30日(月・祝)14:00-17:00(受付開始:13:30)

会場:アカデミーヒルズ(六本木ヒルズ森タワー49階) **定員:**300名(要予約)

料金:一般1,200円、MAMC個人メンバー無料

お申し込み:森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum



藤森照信



妹島和世

撮影:鈴木愛子



原 研哉

撮影:筒井義昭



齋藤精一

■ディスカッション・シリーズ

第1回 「激論!『建築の日本展』を語りつくす」※日本語のみ

書籍『建築巡礼』シリーズでお馴染みの磯達雄、宮沢洋、建築史家の五十嵐太郎を招き、明治・大正建築を起点として、現在までの日本建築を多方面から考えます。「建築の日本展」を楽しむポイントも満載です。「六本木アートナイト2018」開催に伴い、開館延長しているので、プログラム終了後も展覧会をお楽しみいただけます。

出演:磯 達雄(建築ジャーナリスト)、宮沢 洋(日経アーキテクチュア編集長)、五十嵐太郎(東北大学大学院教授、建築史家)、

前田尚武(森美術館建築・デザインプログラムマネジャー)

モデレーター:倉方俊輔(建築史家、大阪市立大学大学院工学研究科准教授)

日時:2018年5月26日(土)19:00-21:00(受付開始:18:30)

会場:森美術館オーデトリウム **定員:**80名(要予約)

料金:無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です)

企画協力:日経アーキテクチュア

お申し込み:森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

磯 達雄
撮影:鈴木愛子

宮沢 洋



五十嵐太郎

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当:都木、津原、村田

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

■ 耳でみるアート「暮らしの中から、建築や街を考えよう」 ※日本語のみ

視覚に障がいがある方を対象とした、スタッフとの対話を通して作品を楽しむツアーです。今回は、建築家の成瀬友梨と共に展覧会を体験しながら、暮らしの中の視点から未来の建築や街について考えます。本プログラムは見える、見えないにかかわらず、どなたでもご参加いただけます。

出演: 成瀬友梨(建築家)

日時: 2018年5月27日(日)13:00-15:00 **会場:** 森美術館展示室内 **定員:** 10名(要予約)

料金: 無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です)

*障がい者手帳をご持参の方(介助者1名を含む)は無料

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum / TEL: 03-6406-6101(月~金 11:00~17:00)



成瀬友梨

■ ギャラリートーク ※日本語のみ

本展担当スタッフが、展示室内でツアー形式のトークを行います。

日時: 2018年5月11日(金)19:00-20:00

2018年6月20日(水)14:00-15:00

2018年7月4日(水)19:00-20:00

2018年8月29日(水)19:00-20:00

会場: 森美術館展示室内 **定員:** 各回15名

料金: 無料(ただし、当日有効の本展覧会チケットが必要です)

お申し込み: 不要(当日先着順、展覧会会場入口にお集まりください)

■ おやこでアート ファミリーアワー ※日本語のみ

0歳から6歳のお子さまと一緒に、森美術館へ出かけませんか?開館前の美術館を貸し切り、小さなお子様と安心して鑑賞いただけます。現在妊娠中のプレママもぜひご参加ください。ご家族との週末の楽しみに、子どもたちとの交流に、子育ての情報交換に、「建築の日本展」を自由にお楽しみください。※詳細は後日、森美術館ウェブサイトにてご案内します。

■ 学校と美術館のためのプログラム ※日本語のみ

展覧会の紹介とともに、現代アートと子どもたちの学びについて先生と美術館スタッフがディスカッションします。図工や美術のみならず、美術館の活用にご関心を寄せていただいている、他教科の先生もぜひご参加ください。

日時: 2018年5月11日(金)19:00-21:00(19:00-20:00 本展担当者によるギャラリートーク/20:00-21:00 ディスカッション)

会場: 森美術館 **定員:** 10名(要予約) **料金:** 無料

お申し込み: 森美術館ウェブサイト www.mori.art.museum

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 都木、津原、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

■ とびだす学校ツアー ※日本語のみ

作品鑑賞を子どもたちや学生たちの学びに取り入れてみませんか？ 授業などの一環として展覧会をご覧いただくツアーです。希望日の4週間前までに以下へお問い合わせください。事前に先生とご相談のうえ、日程や内容を決定します。

対象：保育園、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、専門学校

人数：1回50名まで(ギャラリートークの場合)

*それ以上の人数はガイダンスやレクチャー形式などでご相談に応じます。

料金：保育園、幼稚園、小学校、中学校：プログラム費無料、入館料無料

高等学校：プログラム費無料、入館料1人500円

大学、専門学校：プログラム費無料、入館料1人1,000円

*引率者はいずれも無料

注意事項：・会場混雑やスケジュール等の事情により、ご希望に沿えない場合もあります。ご了承ください。

・館内には昼食をとる場所はありません。

お問い合わせ：電話、FAXまたはメールにて、森美術館ラーニング担当宛に下記項目をお知らせください。

●学校名、学年、人数、ご連絡先 ●ご希望の来館日時(複数の候補日をお知らせください。)

※出演者は予告なく変更になる場合があります。予めご了承ください。

※上記のほか、ディスカッション・シリーズ、手話ツアー、キッズ・ワークショップなどを予定しています。

※最新情報、お申し込みは、森美術館ウェブサイトへ：www.mori.art.museum

プログラムに関するお問い合わせ：森美術館 ラーニング担当

Tel: 03-6406-6101(月～金:11:00-17:00) Fax: 03-6406-9351 E-mail: mam-learning@mori.co.jp

関連情報

■ 音声ガイド ナビゲーターに人気声優の西山宏太郎

本展の音声ガイドでは、アニメやゲームの声優、ラジオのパーソナリティーとして大活躍の声優、西山宏太郎さんがナビゲーターを務めます。

ナビゲーター：西山宏太郎(声優)

ガイド件数：全18件 **解説時間：**約30分 **料金：**500円(税込)

企画・制作：アコースティガイド・ジャパン **監修：**森美術館



西山宏太郎 (にしやま こうたろう)

声優。アニメ「学園ベビーシッターズ」、「TSUKIPRO THE ANIMATION」、「美男高校地球防衛部 LOVE!」、「キズナイーバー」、「ジュエルペットマジカルチェンジ」、「きかんしゃトーマス」など人気番組に多数出演のほか、テレビやラジオの声の出演や、ラジオのパーソナリティーとしても活躍中。第12回声優アワード新人男優賞受賞。

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 都木、津原、村田

Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp

〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

■ お得な割引情報

さんすけ 「三スケ割」

建築やデザインの仕事に携わっている方、勉強されている方のマストアイテム「三角スケール」(通称、三スケ)。「建築の日本展」にちなみ、来館時、三角スケールをご提示いただくと、お得に入館できる「三スケ割」を実施します。ぜひ、マイ・三スケをご持参ください。

対象期間: 2018年4月25日(水)-9月17日(月・祝) 「建築の日本展」会期中

割引対象: 三角スケールを持参の方 ※子供(4歳-中学生)は対象外

※森美術館チケットカウンターにて、三角スケールを提示ください。提示いただいたご本人に限り有効です。

割引内容: 一律100円引き(他の割引との併用不可)

一般1,800円⇒1,700円、学生(高校・大学生)1,200円⇒1,100円、シニア(65歳以上)1,500円⇒1,400円

「リピート割」

展示総数400点を超える「建築の日本展」では、何度でも展覧会を楽しんでいただけるよう、「リピート割」を実施します。前回来館時の半券をご提示でお得に入館できます。また、おススメしたいご家族やご友人に半券をお渡しし、ご利用いただいてもOKです。

対象期間: 2018年4月25日(水)-9月17日(月・祝) 「建築の日本展」会期中

割引対象: 「建築の日本展」前回来館時のチケットの半券を持参の方 ※子供(4歳-中学生)は対象外

※森美術館チケットカウンターにて半券をご提示ください。半券1枚につき1名まで有効です。

割引内容: 一律100円引き(他の割引との併用不可)

一般1,800円⇒1,700円、学生(高校・大学生)1,200円⇒1,100円、シニア(65歳以上)1,500円⇒1,400円

■ 展覧会カタログ

執筆者:

【論考】

藤森照信(建築家・建築史家/東京大学名誉教授)、倉方俊輔(建築史家/大阪市立大学大学院工学研究科准教授)、ケン・タダシ・オオシマ(建築史家/ワシントン大学教授)、野村俊一(東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻准教授)、小岩正樹(早稲田大学理工学術院 創造理工学部准教授)、前田尚武(森美術館建築・デザインプログラムマネジャー)

【ショート・エッセイ】

木内俊彦(東京大学工学系研究科特任研究員)、大井隆弘(三重大学大学院工学研究科建築学専攻助教)、海野 聡(奈良文化財研究所研究員)、本橋 仁(京都国立近代美術館特定研究員)、岸 佑(国際基督教大学アジア文化研究所研究員)、市川紘司(東京藝術大学美術学部建築科教育研究助手)、山崎泰寛(滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科准教授)、石樽督和(東京理科大学工学部建築学科助教)、徳山拓一(森美術館アソシエイト・キュレーター)

サイズ: A4 **頁数:** 336頁 **言語:** 日英バイリンガル

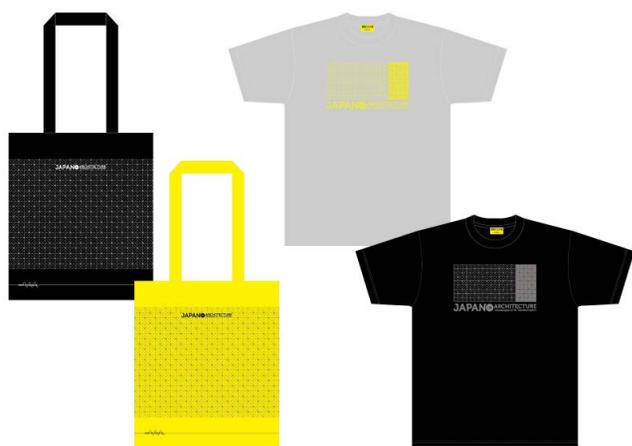
価格: 3,672円 **制作・発行:** 森美術館/Echelle-I **発売日:** 2018年6月中旬予定

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局(共同ピーアール内) 担当: 都木、津原、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル

■ 展覧会オリジナルグッズ

本展のロゴをデザインしたトートバッグやTシャツをはじめ、建築の展覧会ならではのオリジナル三角スケールなどをご用意しています。展示室内のミュージアムショップにてご購入いただけます。

- ・トートバッグ(2色:イエロー、ブラック) 各¥2,592(税込)
- ・Tシャツ(2色:ホワイト、ブラック) 各¥2,376(税込)
- ・スリム三角スケール(9色:グリーン、ピンク、ブラウン、ホワイト、シルバー、ブラック、ブルー、パープル、レッド)各¥648(税込)
- ・ステンレスマグカップ ¥1,620(税込)



本展の広報画像は下記の画像申請フォームより申請願います。
<https://goo.gl/9u9TUF>

プレスリリース お問い合わせ 森美術館 広報事務局（共同ピーアール内） 担当：都木、津原、村田
Tel: 03-3571-5258 Fax: 03-3574-0316 E-mail: mam-pr@kyodo-pr.co.jp
〒104-8158 東京都中央区銀座7-2-22 同和ビル